

令和元年度第2回蟹江町総合教育会議 議事録

開催日時	令和2年2月5日(水) 午後1時15分～2時
場 所	中央公民館 第3会議室
出席者等	町長部局：横江町長、政策推進室長、政策推進課長、同課主事 教育委員会：石垣教育長、伊藤教育長職務代理者、森田委員、山田委員、佐藤委員、 教育部次長兼教育課長、同課主幹
報告者	政策推進室政策推進課
傍聴者	なし

○開会

1 あいさつ

(町長)

改めまして、皆さんこんにちは。本日は、令和元年度第2回目の蟹江町総合教育会議ということで、大変お忙しい中ご出席いただきました。本当にありがとうございます。また、日頃は、町の教育行政全般に当たりましてしっかりとご議論いただき、導いていただいていることに感謝を申し上げたいと思います。令和元年度もあと少しで終わりとなりますが、令和2年度の予算のほとんどが固まり、3月4日の議会の開会に向けて、中身の調整は終わりました。予算計上したのはよいのですが、本当に申請した補助率の補助金がもらえるのかという案件が実は多々あります。その一つが、この後、議論していただくGIGAスクール構想です。内閣府の肝入りで来年度から始まり、いわゆる小中学校のプログラミング教育の一環として、子どもたちに一人1台のタブレット端末を提供し、新たにくるであろうICT、IoT、AIを勉強してもらいたいということです。確かに精神的な考え方は大いに理解でき、蟹江町の教育委員の皆さんもご理解いただいていると思います。議会の皆さんもご理解いただいておりますし、議会で承認し、LAN整備を行ってきたのも事実です。今年度の補正予算に、一人1台の予算を計上し、令和2年度にスタートしますが、基本的には2分の1の補助で全額補助ではありません。ただ、最終的には小中学校の生徒さんがしっかりとIT教育を受けられるように整備するのが我々の務めですので、3人に1台の割合でのIT環境の整備を望んでいたわけですが、一気にそれを乗り越して一人1台というような目標になったことが、予算編成で非常に厳しいところです。教育長や教育部次長、関係者には非常に苦勞したと思いますが、フローチャートを作成し、5年間かけて整備し、その後5年間はメンテナンス含めて自治体で行っていくということで、5年先、6年先は見えてこない状況です。また、会議の中で次長から説明があると思いますので、しっかりと聞いていただければありがたいと思います。

この総合教育会議は、年に2回ほど実施させていただき、実際にこのように町長部局と教育部局がたくさん橋渡しをしながら、前に進んでいくかたちは全く変えておりませんし、これからもより強固に行っていくつもりです。予算編成が終わり、蟹江町が始まって以来の大きな一般会計予算を計上いたしました。これに関しては、計画や予算の内容を調べていただければありがたいと思います。今日のこの会議が実り多きものになりますようによろしくお願い申し上げます。

(教育長)

改めまして、こんにちは。総合教育会議は、町長部局と教育部局が話し合うということですが、色々な情報を共有しながら蟹江町の教育、児童生徒の向上を目指して話し合うというスタンスで実施できればと思います。先ほど町長からお話がありましたように、議題の来年度予算のGIGAスクール構想について、後ほど教育部次長から説明があると思いますが、タブレットを3人に1台で決めていたわけですが、ここに来て一人1台ということになりました。本当にそれが良いのかどうかは分かりませんが、この時期になって財政部局には大きな負担になってしまいます。そのようなことも受けながら、まずは整備し、学校で十分有効に活用できればいいなと思います。本日は、一年間の取り組みと来年度に向けてということで、よろしくお願ひしたいと思います。

2 報告事項

まちづくりミーティングについて

(事務局)

11月1日蟹江北中学校において、中学3年生の全生徒122名を対象にまちづくりミーティングが開催されました。質問の1問目は、今後、小中学校を含めた各公共施設が避難所に値するという事でエアコンを設置する予定はありますかということと、防災・減災の予定を教えてくださいという質問でした。2問目は、障がい者・高齢者への対応を含めてユニバーサルデザインが大切になってくるので、その考え方についての質問でした。3問目は、姉妹都市交流事業について、派遣生徒の人数を増やす計画や他の都市との姉妹都市提携の意向はありますかという質問でした。4問目は、夏休みによく利用する蟹江町図書館の自習室が満席なので、もう少しスペースを増やしてほしいということと、開館時間を長くしてほしいという質問でした。時間の制約があり、当日お答えしきれなかったものは、後日、文書にまとめて学校にお答えし、生徒さんにお伝えいただいています。

3 議題

(1) 次年度の主な予算・取組状況について

(教育部次長)

教育課は、GIGAスクール構想の実現に向けて、各小中学校のWi-Fi環境の整備と校内LANの整備、電源キャビネットの配備について、令和元年3月議会で予算を計上させていただき、それを次年度に繰り越しすることにより、令和2年度に整備するということとなります。タブレットの配備について、小学5・6年生と中学1年生に約1,000台を配備することとなります。また、校務支援システムの更新で、先生が成績表や出退勤の管理等を行っているシステムの5年間のリース期間が切れるため、夏に更新します。

さらに、障害児支援検討委員会の設置ということで、第三者的な意見を伺う委員会を設置し、町から先生たちに医療的ケアを必要とする子どもたちに対する医療器具支援のあり方等について意見をいただくことになっています。

生涯学習課は、文化財保存活用地域計画の策定準備ということで、令和2年度から4年度の3か年をかけて、蟹江町の文化財を中・長期的な観点からどのように保存・活用していくのかを明確にし、文化財への取り組みを可視化する計画を策定していきます。

図書館は、子ども読書活動推進計画のパブリックコメントが終わり、2月に計画が策定されました。今後は計画に基づいて、学校図書館システム導入に向けて準備していきます。具体的には、会計年度任用職員を一人雇い、その方が各学校に出向き、まずはシステムの導入に向けた整理をしていただく予定です。

(森田委員)

ハードを取り揃えていただけることはありがたいですが、ネット関連の授業に割く時間は週に1時間程度ですし、実際の学校現場でタブレットをどこに保管するかなど、色々な環境が整わないことには、苦勞するのは行政ばかりだと思います。

(町長)

学校の先生の対応が大変だと思います。タブレットに何かをインストールする場合のお金は誰が払うのかなど色々な問題が発生してくると思います。

(森田委員)

トイレの整備など色々なことにお金をかけて環境を整備していただく中で、GIGAスクールに予算を使うことによって、トイレの整備などのお金が削られるのは、いかがなものかと思います。

(教育長)

GIGAスクール構想は優先順位が一番が上がってしまいました。国がタブレット1台に45,000円を補助しますが、タブレットの中身を整備すると100,000円かかります。

(森田委員)

教師は毎授業タブレットを使って生徒に指導するのですか。

(教育課主幹)

子どもにタブレットを渡しても、その中に教科書が入っていませんので、電子教科書を導入しない限り、先生が生徒にタブレットのここを見てくださいというようなことができません。電子教科書は、紙の教科書の2倍以上の経費がかかるので、おそらく紙の教科書はなくならないと思います。整備しても、先生のタブレットが指導書に対応しているだけで、子どもたちがタブレットで見るには教科書がないのが現状で、物を先に整備するが、中身がない状態です。また、教科書は市販されていますが、それを入れる予算がない状況です。

(森田委員)

コンピューター室に一人1台のパソコンを整備していただき、私たちの子どもの頃と比べて進歩を感じる中で、ここから先のハード面があるのかという疑問があります。

(教育長)

国は、5年間で一人1台のタブレットを整備する計画ですが、小学1・2年生に本当に一人1台が必要なかと思います。低学年なら3人に1台で十分かもしれません。タブレットを導入してから2年目くらいで、実際に使用中で全国的に色々な反応があると思いますので、それによって少しずつ修正があるのかなと思いますが、まずはスタートに立たなければいけないと考えています。

(森田委員)

現実的な一般労働環境を見ますと、キャリア教育の中で子どもたちに必要なのは体力だと思うので、そこに力を入れるべきかと思います。現在、日本人の労働力不足が否めない社会現場の状況があり、高度経済成長の時代と違って人がどんどん減っていく中で、中学生までにある程度の基礎知識をつけて、

それにプラスしてしっかりとした体づくりをした子を社会に送り出すべきで、そのようなことに時間を費やすべきではないかと思います。

(町長)

G I G Aスクール構想を実施していく中で、国も色々なことが分かって流れが変わってくるかもしれないので、現在はこのような流れになっているということをご理解いただければありがたいと思います。

(教育部次長)

各学校へ定期的にICT支援員を派遣することで、先生のスキルアップやタブレットをより活用できる授業を行っていただく予定です。タブレットの整備は、小学5・6年生と中学1年生が優先されています。小学5・6年生は、新年度からプログラミング教室が始まり、中学1年生は、中学3年生になる時にOECD加盟国の子どもを対象としたタブレットを使用する学力テストが実施されます。日本の子どもはタブレットに慣れておらず、日本のランクが徐々に落ちてきているため、慣れさせていこうという意味合いもあるそうです。そこで、小学5・6年生と中学1年生が優先的に対象となったようです。

(町長)

蟹江町もAI-OCRシステムを導入しなければならない状況です。県は、紙に書いたものを読み取り、電子化して使えるようにする自動読み取りシステムを導入します。国は、多言語に対応できる総合窓口のシステムを作ると宣言しています。

(2) 町立小中学校における現況について

(教育課主幹)

令和元年度学校教育等に関する行事・事業一覧について、町行事・学校行事等ですが、9月の小学校の運動会は、天候に恵まれず予備日実施になったところがありました。また、町の行事としては、町制施行130周年記念タイムカプセル開封式が11月2日に行われたこと、学校行事としては、蟹江北中学校における創立40周年記念式典で、リオオリンピック金メダリストの登坂絵莉選手をお招きし記念講演会を行いました。学校訪問は、今年度の前半に3校行いましたので、後半は4校行いました。教育委員会、諸会議、町校長教頭会議は資料のとおりです。

生徒指導上の諸問題に関する調査結果について、暴力行為があり、生徒同士の些細なことからトラブルに発展する事案が発生しています。相手の気持ちを考えて行動することや自分の気持ちをコントロールすることの指導を保護者と協力して行っています。例年に比べて生徒間暴力が多くなっていることも確かにありますが、少しのことでも学校で留めることなく基本的に教育委員会に報告してもらい、子どもたちに寄り添った指導を行っていくようお願いしています。蟹江町では、外国籍の児童生徒が多くなっていますので、ポケトークなどの翻訳機の導入や日本語指導の教員の配置を希望したりするなど、生徒指導の助けになることを考えているのが現状です。いじめについてですが、内容としては、悪口を言われたり馬鹿にされたりという直接的なものから、SNSを介して行われる間接的なものがありました。しかし、いずれも周囲の児童生徒や保護者などから丁寧に聞き取りを行うことにより、関係者の指導を行うことができています。いじめの対応は、担任教師と児童生徒と関係が近い者が問題を一人で抱え込まないように注意しています。いじめは起こるものであるという認識を持ち、誰もが知りうる存在にすることにより、教職員全員で対応するようにしています。各学校には、いじめの可能性のあるものを積極的にあげてもらい、子どもたちに寄り添った指導を行っていくようお願いしています。不登校

の発生件数ですが、非行傾向による不登校は少ない状況です。これは、先生が日頃の児童生徒との関わりにおいて、丁寧に対応できていることの表れだと考えています。逆に多くなっているのが、精神的な問題を抱えての不登校です。形態は様々であり、人に対しての恐怖感を抱いていたり、スマホ依存による昼夜逆転現象といったことが問題になっています。いずれも本人への指導だけではなく、保護者や関係機関と協力して改善を進めています。